

## 「ミクロネシア諸島自然体験交流」

### 1 趣 旨

ミクロネシア諸島（以下ミクロネシアという）の子供たちを日本に招聘し、異文化交流を通して、グローバル社会に対応した国際感覚を備えた青少年を育成する。日本での文化体験、共存することの大切さを学ぶとともに、日本とミクロネシアの子供たちが友情を育むことを目指す。

### 2 事業の概要

- (1) 期 日 令和元年 6月 8日 (土) (事前学習：ホストファミリー説明会及び英会話教室)  
令和元年 6月 20日 (木) ～ 24日 (月) 【4泊5日】 (三瓶プログラム)  
令和元年 6月 22日 (土) ～ 23日 (日) 【1泊2日】 (ホームステイ期間)  
令和元年 6月 16日 (日) ～ 25日 (火) 【9泊10日】 (日本滞在全日程)  
令和元年 6月 29日 (土) (事後学習：お手紙を書こう)
- (2) 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 (地域プログラム担当：国立三瓶青少年交流の家)
- (3) 共 催 大田市教育委員会
- (4) 協 力 大田市立北三瓶小学校・中学校, NPO 法人緑と水の連絡会議
- (5) 対 象 11～15歳までの青少年24名, 随行者4名 計28名  
○ミクロネシア連邦・ポンペイ州・・・青少年12名, 随行者2名  
○ミクロネシア連邦・ヤップ州・・・青少年12名, 随行者2名  
ホストファミリー12家族

### 3 事業の内容

#### (1) プログラムデザインと企画のポイント

- ア) 事業前には「事前説明会」, 「英会話教室」, 事後には「お手紙を書こう」を開催した。地元教育委員会よりALTを派遣いただくことにより, ホストファミリーとの事前, 事後の連携の機会も増やせ, ホストファミリーとミクロネシアの子供たちの交流が促進されることとなった。
- イ) ホームステイプログラムに入る前の段階で, ホストファミリーの子供とミクロネシアの子供が仲良くなるように, 21日 (金) の夜にレクリエーション等を行い, 一緒に宿泊を行うこととした。
- ウ) ミクロネシア諸島にはない, 大型ダム (志津見ダム) の見学を入れることにより, ダムの役割を理解することはもちろんだが, なぜ日本にダムが必要なのかを理解してもらうことで, 日本への理解を深めるきっかけ作りとした。
- エ) 23日 (日) フェアウェルパーティーで島根県の伝統芸能「石見神楽」 (演目は「八岐大蛇」) を紹介し, 地元の神楽団に演じていただいた。「石見神楽」は, 今年度日本遺産に認定されたこともあり, 島根県の伝統文化に触れる機会を設けた。また公演後, 「石見神楽」で使う道具等にも触れる機会も設けた。
- オ) ミクロネシアの子供たちが慣れない日本での活動を行うことで, 急なプログラムの変更が必要となる場合も想定して, 全日程において, 時間に余裕を持たせて企画を行った。

#### (2) 運営のポイント

- ア) 施設の使い方や交流活動をする際, なるべく言語での説明だけでなく, パワーポイント等の映像

や文字やイラストを入れた紙芝居等を使用し、視覚でも理解できるように準備を行った。

イ) 緊急時、迅速な対応が行えるよう、プログラム実施時は2名以上の職員が対応できるようにした。

ウ) 交流期間中は、全所体制で対応した。会場の飾りつけ等の準備は、担当外の職員で対応できるように行った。

### (3) 広報のポイント

ア) ホストファミリーの募集については、大田市教育委員会と共催の形式をとることで積極的に情報発信を行った。

イ) 学校訪問先の選定については、大田市校長会の場において、次長が協力要請を行った。

### (4) 活動内容

○事前学習：ホストファミリー説明会及び英会話教室（6月8日（土））

10家族 21名が参加。（残りの2家族は、後日個別に対応（説明のみ））

英会話教室については、大田市教育委員会 ALT3名を講師として実施。

ア) 説明会

受け入れに当たっての注意事項等の説明を実施。

イ) 英会話教室

日常で使える英語のフレーズを、ALTが行う劇を通じて学ぶ。そして、グループに分かれて、実際に英語を使って会話の練習を行う。

○三瓶プログラム（6月20日（木）～24日（月））

<6月20日（木）>

○ねらい

- ・日本の海とミクロネシア諸島の海との違いを理解すること。
- ・交流の家の過ごし方を理解すること。
- ・交流の家の活動場所を理解すること。

☆活動内容

午後：移動（出雲空港→キララ多岐見学→交流の家）、はじめの会、交流の家内の探検

夜：自由時間



<6月21日(金)>

○ねらい

- ・日本の中学生との交流を通して、友情を育むこと
- ・日本特有の文化体験及び施設見学(大型ダム)を通して日本のことを理解すること
- ・ホストファミリーの子供たちとの生活を通して、友情を育むこと

午前～午後：大田市立北三瓶小学校・中学校プログラム(習字体験，茶道体験，給食体験)

午後：志津見ダム見学，荷物の準備

夜：事前交流会(ホストファミリーの子供たちとの交流)



<6月22日(土)>

○ねらい

- ・レクリエーション，ホームステイプログラムを通じてホストファミリーとの友情を育むこと
- ・日本の文化・生活体験を通して日本のことを理解すること

午前～午後：ホストファミリー対面式(レクリエーション)

午後：ホームステイプログラム



<6月23日(日)>

○ねらい

- ・ホームステイプログラムを通じてホストファミリーとの友情を育むこと
- ・日本の文化・生活体験を通して日本のことを理解すること

午前～午後：ホームステイプログラム

夜：フェアウェルパーティー



<6月24日(月)>

○ねらい

- ・日本の買い物体験を通して、日本の経済や文化特性を理解すること

午前：買い物体験→東京へ出発



○事後学習：お手紙を書こう（6月29日(土)）

2家族 5名が参加。大田市教育委員会 ALT3名が講師として実施。

## 4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計

13 (名)

(2) 参加者の声

	とても 思う	思う	少し 思う	あまり 思わない	思わない	全く 思わない
世界に貢献したい	7	4	2	0	0	0
自分の可能性を広げたい	8	4	1	0	0	0
交流した方と将来も繋がりを持ちたい	12	0	1	0	0	0

- ・ホームステイプログラムの事前交流会及び対面式でのレクリエーションを通して、ミクロネシアの子供としてしっかり交流することができたおかげで、1泊2日の短い期間であったが、充実した時間を過ごすことができた。
- ・会話で苦勞したので、英語をもっと勉強したいと思った。
- ・海外はちょっとこわいと思っていたけど、今回の交流を通じて、海外へ行ってみたいという気持ちになった。
- ・今後もっと多くの海外の人と仲良くなりたい。
- ・日本とミクロネシアとは文化や言葉が違うということが分かった。次は私がミクロネシアに行って、ミクロネシアの人と交流したい。

## 5 成果と課題

### 《成 果》

- ・交流期間中、参加に施設の七夕飾りの短冊を書いてもらったところ、ミクロネシアの子供たちからは、「また日本に戻ってきたい」「またホストファミリーの家族に会いたい」等の記述、日本の子供たちからは、「交流したミクロネシアの子供にまた会いたい」「ミクロネシアへ行きたい」等の記述があった。また、フェアウェルパーティーが終わり、お別れの際には、ホストファミリーやミクロネシアの子供たちがハグや涙を流してお別れを悲しんでいたこと、そして、参加者アンケートの結果を含め、今回の交流を通して、しっかりお互いに友情を育むことができた。
- ・ホストファミリー3家族からミクロネシアへの派遣プログラムについて問い合わせを受けた。今回の交流を通じて、実際にミクロネシアへ行きたい気持ち、さらに異文化体験を行いたいという気持ちを育てることにつながった。

### 《課 題》

- ・施設の説明(はじめの会)について、『緊急時の避難について』、『お風呂の入り方』、『食堂の使い方について』は、より詳細の説明が必要であった。次年度は、もう少し時間をかけて説明を行う必要がある。
- ・最終日のお弁当について、機内で食事をするために、周りに匂いが広がらないお弁当を次年度は検討する必要がある。

(担当：事業推進係 久城 秀太)